

2023 STATE OF DESIGN & MAKE

設計・製造 (D&M) 業界のまとめ

製造業界のリーダーから、各企業の最大のビジネス課題と機会に関するインサイトが得られました。



『State of Design & Make』は、製品や空間、体験を設計・デザインし、創出している世界でのビジネスリーダーを対象に毎年実施するグローバル調査のレポートです。今回の調査により、**昨今のビジネス上の意思決定を形成し、変化を推進している主な要因が明らかになりました。**この情報は、リーダーが優先順位を付けて将来に投資するのに役立ちます。

オートデスクは、世界的な研究および分析のリーダー的存在である Ipsos と提携し、2,565 人のビジネスリーダー、未来学者、専門家を対象にアンケートとインタビューを実施し、各社が直面しているビジネスの課題や機会について意見を伺いました。

『State of Design & Make』レポートの全文(すべての用語および研究分析を含む)を読む

不安定な状況の中でより重視されるビジネスのレジリエンス

全業種のまとめ

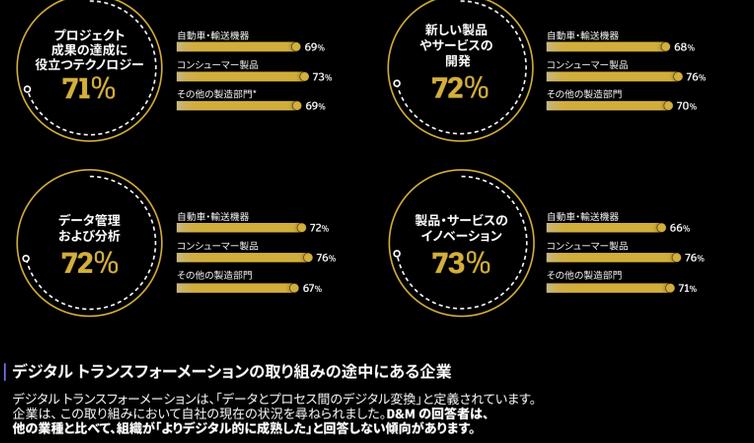
業界のビジネスリーダーと専門家は「**未来の世界情勢は3年前より不安定になったと感じる**」と回答しています。さらに、その多くが「**自社はこの不安定な状況に対応する準備ができています**」と回答しています。

企業のデジタル成熟度が、この点において**大きな違い**をもたらしました。自社のデジタル成熟度が高いと答えた回答者ほど、デジタル成熟度が低い企業よりも、「**変化に対応する準備ができています**」と回答する割合が高くなっています。デジタル成熟度が高い企業はまた、今後3年間で**投資を増やす**ことを計画する割合も高くなっています。

加速している業界の変化に対応できている企業の多くが、既存のサービスの拡充、新しいサービスの提供、市場開拓の新たな可能性を視野に入れて計画を立てていることがわかりました。



設計と製造に関するインサイト

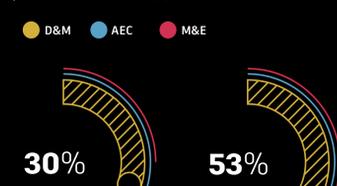


デジタルトランスフォーメーションの取り組みの途中にある企業

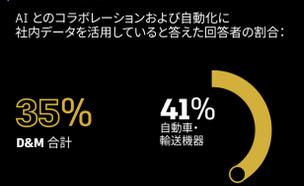
デジタルトランスフォーメーションは、「データとプロセス間のデジタル変換」と定義されています。企業は、この取り組みにおいて自社の現在の状況を探られました。**D&M の回答者は、他の業種と比べて、組織が「よりデジタル的に成熟した」と回答しない傾向があります。**



パンデミックへの対応:



データの活用:



製造業界は今後3年間で、**貿易スキルの開発とサプライチェーンの多様化に優先して取り組む必要があります**。原材料サプライヤーと地域ハブによって重要コンポーネントの製造を支援し、サプライチェーンを拡大することで、市場での競争力を高め、ビジネスチャンスを生み出し、雇用を創出できます。また、サプライチェーンの混乱が生じても、業界が機能する状態を維持することが可能になります。”

- re3D Inc. 共同創業者, Samantha Snabes 氏

過熱する人材獲得競争

全業種のまとめ

回答者の72%は「過去3年間のうちに、それ以前の25年よりも大きく労働環境が進化した」と答えています。

リモートワーク体制や、持続可能性の取り組みに関する評判は、人材のスキル格差を埋めるための大切なツールとなります。

よりデジタル的に成熟した企業のリーダーたちも、**テクノロジーに投資し、より広い地理的領域から人材を雇用し、新しいトレーニングプログラムを実施**しています。



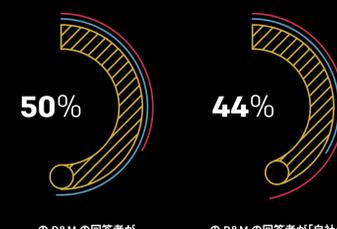
設計と製造に関するインサイト

未来に求められるスキル

自動車・輸送業界の回答者は、今後3年間で従業員にとって最重要となるスキルや知識として、次の項目を挙げています。

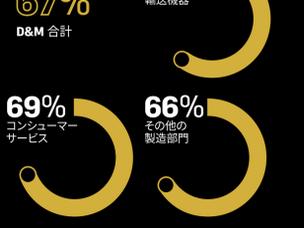


人材の課題:



人材の解決策:

「自社は今後3年間で、テクノロジー中心のトレーニングへの投資を増やす予定である」と同意した回答者の割合:



デジタルトランスフォーメーションに焦点を当てることは、企業が最近の大学卒業生を引き付けるのに役立ちます。**新しい創造的な仕事は、彼らにとって魅力的です。**

東芝エレベーター株式会社 執行役員常務チーフデジタル エグゼクティブ 古川 智昭 氏

持続可能性がビジネスバリューの推進力

全業種のまとめ

ビジネスリーダーと専門家の大多数は、「**持続可能性の目標を達成することは、自社にとって重要である**」と回答しています。回答者の**90%近くが、「自社・業界は、持続可能性向上のための変革に取り組んでいる」と回答**しています。ただし、自社の持続可能性への取り組みに誇りを持っていることに強く同意した回答者はわずか17%でした。

回答者の80%が、「**長期的なビジネスの観点から、持続可能性の取り組みを改善すべきだ**」と回答しました。また、回答者の過半数は、「**短期的なビジネスの観点でも良い判断だ**」と答えました。

さらに、「**持続可能性への対策が最終的に収益の多くの部分を占めるようになるだろう**」と回答したのは回答者の約20%でした。



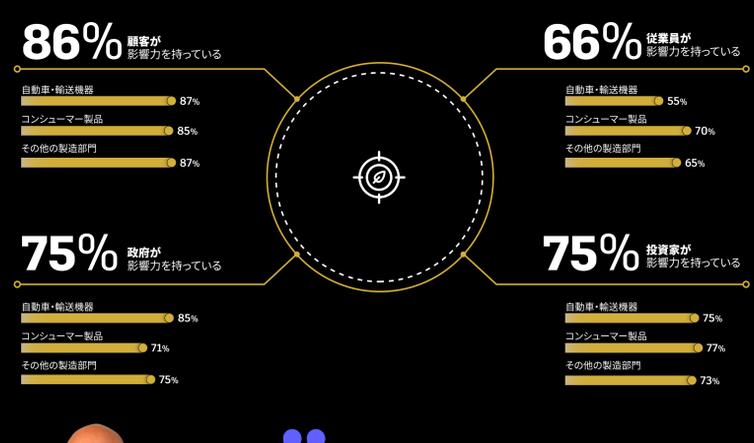
設計と製造に関するインサイト

持続可能なアクション

回答者は、持続可能性の向上に向けて自社が何に取り組んでいるかを明らかにしました。一部のアクションでは、D&M が一歩リードしています。



持続可能性目標の設定・達成に向けて、さまざまなグループが組織に影響を与えています。

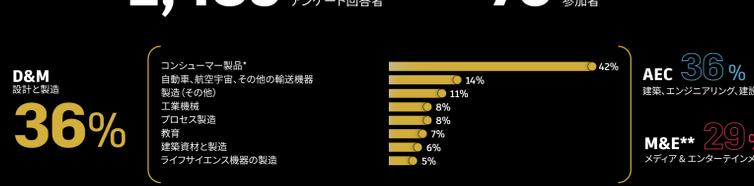


持続可能な材料を商業的に成功させることは、最大の課題のひとつです。たとえば航空業界では、持続可能な製品の市場投入が早すぎたために競争力を維持できず、市場にとどまることができなかったケースがありました。現在、航空機全体の二酸化炭素排出量の約5%から10%が、航空機客室から排出されていますが、たとえば軽量化や循環型材料の利用などによって、この数値を下げるすることができます。当社は現在、最新の研究開発や技術開発、航空機客室のイノベーションに取り組んでいます”

Airbus 社 キャンピ市場インサイト責任者、Stefan List 氏

回答者データ

2,489 定量的 アンケート回答者 **+ 76** インタビュー参加者



『State of Design & Make』レポートの全文を読む - すべての用語および研究分析を含む

レポートをダウンロード

* 建築資材と製造、工業機械、ライフサイエンス機器の製造、プロセス製造、その他の製造が含まれます。
** 四捨五入のため、個の合計は100%になりません。

出典: オートデスク ©2023 State of Design & Make。レポートおよび調査データ